

[06] 地域健康文化学論輯表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/26551>

出版情報：地域健康文化学論輯. 6, 2012-03-31. 地域健康文化学会
バージョン：
権利関係：

地域健康文化学会・地域健康文化学研究所の活動記録 2011.9-2012.3

2011年9月30日(火) 『地域健康文化学論輯 第5号』(ISSN 1884-3174)
(Journal of Community, Health, and Culture Vol.5) 刊行

2011年12月25日(日) 第16回 ワークショップ

午後1時～3時

場所：福岡市美術館・大濠公園・福岡城一带

(集合場所は福岡市美術館 2F、総合受付＝チケット売り場前)

内容：ブレインストーミングと再統合。各自写真撮影し、選んだ数枚の写真を自己自身と荒木正見とで分析し、自己の将来の発展へと開いた。

2012年1月15日(日) 第17回 ワークショップ

午後1時～3時

集合場所：西鉄大牟田線高宮駅改札口

内容：福岡市文化交流園「松風園」に移動して、デジタルカメラで、荒木正見が提示したテーマ「新年の目標」にそった写真を撮影して、のち、自身と荒木が分析、将来の生き方に繋いだ。

2012年2月12日(日) 第13回 地域健康文化学会大会

午前10時～午前11時45分

場所：

福岡市男女共同参画推進センターアミカス研修室 A(Phone : 092-526-3755)

1. ご挨拶・ご連絡

2. 口頭発表

発表者：藤原まみ氏(九州栄養福祉大学)

専門：ラフカディオ・ハーン

専攻：比較文学、英語文学、日本近代文学

目下の研究テーマ：

ラフカディオ・ハーンの文学世界における身体と言語の相関性について

発表表題：ラフカディオ・ハーンにおける層のイメージの受容と変容

内容：今回の発表では、ハーンと当時の科学知識との関係を考察する第一歩として、ハーンが書簡や作品においてしばしば言及しているイギリスの科学者フランシス・ゴルトンとハーンとの関係を取りあげる。特に、ゴルトンの合成写真研究に焦点をあて、そこに表された層のイメージを、ハーンが如何に受容し、変容させていったかを跡付けていく。

3. 学会講演

講演者：西健太郎氏

(山口県熊毛郡平生町・光輝病院外科部長・平生クリニックセンター副所長)

講演者プロフィール：療養型病床である光輝病院で入院患者を診療し、平生クリニックセンターという、19床の有床診療所で外科外来業務を担当されている。

研究テーマ：ここ数年はコミュニケーションツールであるNLP(神経言語プログラミング)や、臨床催眠を中心とする臨床心理学、心理療法に興味を持ち、研鑽を続けておられる。

演題名：繋がり

内容：医師になり27年、急性期病院での外科医としての19年間を過ごした後、この8年間、療養型病床での臨床を通して講演者が行なっている医療を、実習(タッピング・タッチ)を混じえ、紹介していただく。

2012年2月12日(日) 第18回 ワークショップ

午後1時～3時

集合場所：西鉄大牟田線高宮駅改札口

内容：デジタルカメラで、興味あるものの写真を撮影して、のち、自身と荒木が分析、将来の生き方に繋いだ。

2012年3月31日(土) 『地域健康文化学論輯 第6号』(ISSN 1884-3174)

(Journal of Community, Health, and Culture Vol.6) 刊行

.....

ワークショップの記録

2012.1.15 福岡市文化交流園「松風園」でのスナップ





















